

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

新型コロナウイルスの第2波とも言われる感染拡大は、皆様の3密回避等の実践により、収束しつつあるとの見方も示されていますが、冬期にはインフルエンザとの同時拡大も懸念されており、引き続き感染対策の徹底が求められています。

こうした状況を踏まえ、今月13日に閉会を迎えた愛知県議会9月定例会では、感染拡大防止に向けた条例を新たに制定するとともに、感染症対策として719億円の補正予算を可決しましたが、今後も引き続き、感染拡大防止と社会経済活動の維持の両立を目指してまいります。

なお、この9月議会では偶然にも豊田市選出議員5名全員が揃って一般質問のため本会議で登壇しましたが、私からは新型コロナウイルスによって大きく変化した社会生活の中で、少子高齢化問題はこれまで以上に重要な課題と考え、「少子化対策」と超高齢社会に向けた「地域包括ケアシステムの構築」の大きく2点について県の考えを質しました。

その中でも少子化対策については、昨年の国内出生数が約86万5千人（合計特殊出生率1.36）と過去最少を記録し、「86万ショック」とも呼ぶべき状況にある事から、結婚・妊娠&出産・子育てと、ライフイベント毎の支援の充実を訴えるとともに、今後の県の方針を質しました。

質問に対し県からは全般的に前向きな答弁を得る事ができ、特に子育て支援については、今後5年間で約13,000人分の保育の受け皿を整備するとともに、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進などに取り組むとの答弁が大村知事よりありました。

今後は更に大きく社会システムが変化していくと思われませんが、時代に即した少子化対策・高齢社会対策の実践を引き続き目指してまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 